

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめきFukuoka

2018.3
No.238



特集

福岡市でユニバーサルな人や物を探してみました!!

- 福障協だより 「青でつたえたい私たちの想い 知ってください自閉症・発達障がいのこと」
- 身障協会だより 「第48回九州身体障害者福祉大会・第25回九州ブロック身体障害者相談員研修会(沖縄大会)」報告
「第63回日本身体障害者福祉大会(ぐんま大会)ツアーのご案内」
- 3月・4月の福祉用具情報 ～福岡市介護実習普及センターより～

特集 福岡市内のユニバーサルに関する人や物を探してみました!!

今回の特集は、ユニバーサルデザインやサービスなどについてご紹介いたします。
 ユニバーサルデザインとは、障がいの有無や年齢、性別、人種などにかかわらず、たくさんの人々が
 利用しやすいように、さまざまな製品やサービス、環境をデザインする考え方です。現在では、
 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、この考え方が都市部を中心に拡大しています。
 そこで、福岡市でも人や環境に配慮された現場を取材しました。

1.福岡にも新たなUDタクシーが登場 トヨタ JPN TAXI(ジャパntaxi)



JPN TAXI(写真)

ここ数年、福岡市内でも街中を走るUDタクシーを目にすることが多くなってきたのではないのでしょうか。以前、
 本紙(平成25年9月号)でもUDタクシー日産NV200をご紹介
 をしましたが、昨年10月、トヨタから国内の多くのタクシー
 会社が採用する専用車両コンフォート(約8割を占める)の後
 継として誕生した“JPN TAXI”をご紹介します。JPN TAXI
 は、セダンタイプのコンフォートとは異なり、車いすユー
 ザーの方や外国人観光客など、様々な利用状況に配慮され、
 車高は約175センチと乗り降りしやすい開口部となっています。そこで今回、福岡市博多区東光
 にある福岡トヨペット株式会社さんにご協力いただき、実際に乗車体験してきました。



この吊革
いいね~



座り心地
ゆったり



車いす収納も
十分OK!



スロープを
設置



車いすでも
らくらく!!



車内は
快適!



サービス介助士2級の資格を
持つ福岡トヨペットの
荒川さん(左)



車いすを
固定します

現在、福岡市内の数社のタクシー会社において、約60台ほどのJPN TAXIが使われています。

しかし、一般のタクシーと比べるとタクシーとしての認識が低く、料金が高いのではなど?心配される声もありますが、UDタクシーは一般のタクシー料金と同じ設定となっています。

皆さんも一度利用してみたいかでしょうか。

タクシー料金割引制度について

在宅の重度心身障がい児・者がタクシーを利用する際、そのタクシーの一部が助成されます。対象者は身体障害者手帳又は療育手帳を所持する人です。タクシーに乗車の際は、乗務員に手帳を提示してください。タクシー料金が1割引きとなります。

福祉タクシー料金の助成について

- ◆一般型:一乗車につき500円、ワゴン型:30分までの時間運賃分を助成
- ◆一般型:年間最大55枚、ワゴン型:年間最大48枚
※交付枚数は申請月によって異なります
- ◆対象者は18才以上の障がい者の場合は、本人及びその配偶者が市民税非課税で、かつ以下の障がい程度の人となります。
 1. 視覚障がい1・2級
 2. 下肢、体幹機能障がい1・2級
 3. 内部障がい1・2級
 4. 視覚障がい、肢体不自由(上肢、下肢・大幹)、内部障がい^{が重複して総合2級以上でかつ}下肢又は体幹機能障がい3級の人
 5. 療育手帳A

※詳しくは、各区の福祉・介護保険課へお問い合わせください。



3月号の表紙にご協力いただいたみなさん

福岡トヨペット法人営業部

左から荒川努さん(法人営業部次長)、
大石誠さん(課長)、藤岡寛行さん(主任)

福岡市肢体障がい者福祉協会

左から3番目 清水邦之さん(副会長)

2. 市内すべての区役所の全課に“サービス介助士”が配置されています!

福岡市は、「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサルデザイン都市・福岡」をまちづくりの目標像として掲げ、市政の柱の一つとして推進しています。その取組みのひとつとして、すでに平成27年より、区役所や保健福祉センターに来庁された高齢の方や障がいのある方に必要とされるお手伝いや介助ができるよう、すべての区役所全課に、“サービス介助士”の職員が配置されています。介助講習等で介助の技術や知識を学んだ職員が、区役所にお越しになる方をやさしくサポートし、窓口サービスの向上に取り組んでいます。

そこで今回、このサービスを福岡市内で先駆的に実施された城南区役所を取材させていただきました。

取材に対応していただいたのは、総務部総務課の篠崎雄樹さんとサービス介助士の資格を持つ市民課の武末実来さんです



総務課 篠崎雄樹さん

Q. 西日本“初”の取組みとの事ですが、いつから実施されましたか?

A. 城南区役所では平成25年度から開始し、最初は10名の職員でスタートしました。平成26年度からは各課にサービス介助士の資格を持った職員を配置しています。

Q. 具体的にどのようなサービスをされていますか?

A. ご高齢の方、障がいのある方がお困りの際は声をお掛けして、窓口へのご案内や庁舎内の移動のお手伝い、また必要に応じて代筆などのお手伝いもしています。

Q. 城南区役所には何名のサービス介助士の方がいますか?

A. 現在、17課に20名のサービス介助士を配置しています。



市民課 武末実来さん

Q. サービス介助士と認識できる表示などはありますか？

A. 区役所内の入り口および各課の窓口 서비스에介助士がいることを示す表示板を設置しています。

Q. サービス介助士を配置して、なにか変化はありましたか？

A. 以前に比べると職員一人ひとりが、来庁される方への気配りができるようになり意識向上につながっています。



サービス介助士の資格を持った職員がいることを知らせる表示板(各課の窓口)に設置

Q. まだこのようなサービスを知らない市民の方もいるかと思うのですが、市民への啓発はされていますか？

A. 区のイベントなどで、区役所全課にサービス介助士を配置していることのPRを行っています。

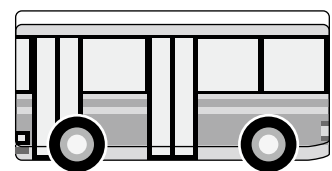


城南区役所ではユニバーサルデザインに配慮した案内サインがあります。

3. 福岡市内には障がいがあるひとないひとにもやさしい配慮があります。

私たちの身のまわりに様々なUDの考え方が取り入れられていました。

西鉄バスの車内前方にある運賃表には、液晶画面で乗換えや路線の各停留所を表示しています。これは、知的障がいのある方にとっては、人に尋ねることが苦手で、周りの人や運転手さんに尋ねたくても難しく、先の見通しがたたないと、とても不安になります。しかし、バスの画面のように路線の行先案内や料金などが表示されることで安心して利用することができます。



同様に、レストランや回転すしなど店員さんに尋ねなくても、メニューが写真やひらがな標記などでわかりやすく表示してあり、飲食店にある注文用タブレットから選ぶことができるのも知的障がいのある方にとってやさしい配慮のひとつです。

そして、昨年4月には西鉄が当事者・家族などの悲願であった、精神障がい者に対する運賃割引が導入されることになり、精神障がい者の社会参加がさらに促進されることとなりました。

また、視覚障がいのある方にとって、スマートフォン(スマホ)の存在は必要なツールとなっています。例えば、「ネクタイは黒です」とiPhoneが答える。バスナビは「バスが2分遅れてます」と教えてくれる。以前なら急な事でヘルパーの手配ができないと外出を諦めていた人も、スマホがあることでナビガイドがあれば案内を聴きながら目的地まで辿りつくことができる。衣服の色・紙幣の識別、明るさを音で知らせてくれるアプリもある。スマホによって新たに得られた情報は視力を補い、視覚障がい者の世界を広げるあらたなユニバーサルデザインではないでしょうか。

